

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600639		
法人名	有限会社 あすなろ		
事業所名	有限会社あすなろグループホームまごころ	ユニット名	第一
所在地	長崎県五島市職人307-2		
自己評価作成日	平成30年8月17日	評価結果市町村受理日	平成30年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年9月7日	評価確定日	平成30年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の通り「思いやりとまごころ」を持ってケアするように心がけている。又、ホームは自然に囲まれた静かな場所に立地し、時間に追われることなく、自由にのんびりと暮らすことが出来る。行事あるごとに、利用者、家族、地域の皆様の協力を得ることが出来、喜んで頂いている。介護の面では、家族からの要望があれば、施設で出来る事は全力で行い、現に終末のケアも出来る範囲で行ってきた。これからも、利用者や家族、地域の方々と一緒になってお互い助け合って行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎県五島市にある“グループホームまごころ”では、日々穏やかな生活が送られている。ホームの創設者である施設長と事務長は、入居者の方々を家族と思って、“まごころ”込めた関わりをするように職員に伝えてこられた。職員も優しい方ばかりで、入居者の方々が少しでも笑顔で元気に過ごせるように、日々の生活の中で歌や体操、歩行訓練等も取り入れ、家事などの役割も頂いており、ホームに入居後、次第にお元気になる様子が、自宅に帰られた方もおられる。入居年数が長い方もおられ、全員での外出は難しくなっているが、日向ぼっこをされたり、個別の外出の機会が作られている。日々の食事も大切にされており、梅干しやラッキョウ、切干し大根等も手作りされている。前回の外部評価以降、認定こども園の園児たちとの交流が再開し、園児が踊りを披露して下さったり、入居者と握手をして下さり、笑顔溢れるひと時が増えている。今後も入居者個々の「できる事」を引き出し、可能な限り自立した生活が継続できるように、アセスメントシートの情報も追加していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の下、地域と疎遠にならず、これまでと変わらない生活を送れるよう支援している。	「思いやりの心でまごころの介護を」という理念を実践している。優しい職員ばかりで、施設長や事務長などの思いである「自分の親と思って」「馴染みの五島弁も使って」等を日々取り組まれている。入居者の心に寄り添い、まごころのこもった対応を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々には、普段から気軽に声をかけ、敬老会などの行事に招待したり、地域の一人として積極的に交流を図っている。	認定こども園の園児が、ひな祭りや七夕の時に踊りを披露して下さっている。ホームの敬老会(11月11日11時開始)では、ご本人と家族がゆっくり楽しめるように企画し、ボランティアの踊りや職員の踊り等も好評である。富江神社祭りの神輿訪問も恒例で、獅子舞を楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や入居者を交え、散歩や施設前のベンチで会話したりホームに招くことにより、認知症への理解を深めて頂くよう、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、家族、役所、老人会長、地域の方々へ参加して頂き、施設での取り組みの状況を伝え、情報交換もできる為、今後も継続して行きたい。	日々の取り組みを報告し、避難訓練も一緒に行い、参加者と意見交換している。家族の参加も多く、外部評価(自己評価)結果も報告し、「皆さんが努力しているので、感謝しています」等の意見を頂いた。地域の方から民泊の報告をして頂いたり、地域情報の共有も続けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所へ足を運び、事業所の実績を伝え、情報収集もしている。又、役所主催の研修等には積極的に参加している。	事務長や管理者、ケアマネ等が本庁(会議の議事録等)や富江支所(更新の手続き、推進会議のご案内)に行かれている。運営推進会議に支所の方が出席して下さい、五島市の取り組みなどを教えて頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止マニュアル」を全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関、居室の施錠はせず、網戸にして開放している。	理念の中に「私たちは暴力や虐待および身体拘束を行いません」と掲げている。入居者の方々は穏やかに過ごされており、職員も寄り添いを続けている。感情が不安定な時は理由を分析し、さりげなく見守りをしたり、外を散歩されており、大好きな音楽を聞いて頂く時もある。	現在、身体拘束は行われていないが、今後も職員全員で「身体拘束は絶対にしない」という意識を持ち、制度改正の内容や身体拘束に関する勉強を深めていく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とは何かと全職員が理解している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前の入所者に権利擁護を利用していた方がいたので全職員が理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす時には重要な所は線を引いたり繰り返し説明し理解して貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を玄関に設置し家族には面会時や、家庭訪問時等に要望を伺っている。又、面会が少ない家族には電話や文書で連絡を取り合い、情報交換を得ている。	面会時や電話で家族と情報交換している。事務長等が自宅訪問し、家族に要望等を伺う機会も作られている。敬老会の感想「もう少しゆっくりできれば」等の意向を伺い、敬老会の検討も行われた。面会時に昼食やおやつ等を一緒に食べてもらう時もあり、家族の絆を大切にされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや各ユニットに分かれ会議を行い意見を出し合っている。	全体ミーティングやユニット毎の会議をしている。職員は、入居者が元気に笑顔で過ごし、最期まで「ここで良かった」と思ってもらえるように意見やアイデアを出し合っている。敬老会の企画や出し物も素晴らしく、皆さんで楽しむ事ができた。日々のレクやゲーム内容も職員のアイデアが活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員とコミュニケーションを図り、各自が向上心を持って働ける様な、環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の計画を立て、積極的に参加し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの招待等(夏祭り)で訪問している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者の言葉、行動を観察し、不安が無い か、同じ目線で話を聞き、見極めるよう努めて、その方の傍に寄り添いスキンシップを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ち、要望を十分に理解した上で、事業者として、出来る事、出来ない事を説明し、話し合う事で信頼性を得る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の要望を聞き、十分理解して必要な支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者と一緒に、洗濯物を畳んだり季節によってはつわむきをしながら、むき方を教えて貰ったりと学ぶ事があり、又、手助けする事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時は、食事、おやつと一緒に食べて頂きながら施設での生活状況を報告し家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院、美容室等入居者本人の馴染の付き合いを大切にしている。	知り合いの方がホームに遊びに来られたり、敬老会に神父様も来て下さっている。家族とお墓参りや葬儀に行かれたり、お孫さんの結婚式に職員が同行された方もおられる。ご本人の希望もあり、職員と一緒に自宅の庭の芝を採り、ホームの神棚にお供えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不安になっている方がいると、優しい声をかけてあげたり、ソファーに座っている時は毛布をかけてあげたり、立ち上がりの時、そっと見守ったりと日々生活の中で支え合っている光景が見られる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に見舞いに行ったり他施設に入所された方には、面会に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて思いをくみ取る努力をし、本人の意向を優先的に考えている。話を聞いて解決困難な場合はそのままにせず、入所者本位に検討している。	日々の生活の中で、ご本人の思いをゆつくり聞かれている。生活の中で「やりたいこと」「食べたいこと」「行きたい場所」等の希望を引き出すと共に、日々の生活の中で、家事や体操、折り紙、新聞折り等のお好きな事をして頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	看護サマリーや家族からの情報で、これまでの生活の経過を把握している。使い慣れた家具や物品、家族の写真を持ち込んだり変わらぬ生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルを参考にするなど、入所者の心身の状態を把握し、一人一人の一日の流れを全職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所時や電話連絡により家族の意向、入居者との会話の中で希望や思いを聞き取り、ケアプラン作成に生かしている。	ご本人や家族に要望を伺っている。ケアマネが計画の原案を作成し、全職員で検討している。医療連携や日々のケア内容と共に、歌や体操、歩行訓練等も盛り込まれている。方言を使用し、優しい計画になっている。24時間のケア内容(3表)もあり、日々のチェックも行われている。	今後も認知能力や行動障害の背景(原因)、できそうな事(目標)、各活動の要望、解決策、ケアの留意点等をアセスメントに増やすと共に、アセスメントをベースとして、介護計画、日々の実施記録に連動させていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者の気付きや変化等は、個人記録、職員間の申し送り帳を活用し、全職員で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、その時の入居者の心身の状態や希望に応じて対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事以外にも、地域の方々、地元の警察官、民生委員の方が訪問して下さり、又、年に2回の防災訓練実施時には、地元の消防署に協力依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を選択している。定期受診には職員が同行し、状態の変化等が見られる場合は、家族へ連絡し家族と一緒に主治医からの説明を受けるようにしている。	24年から「ふれあい診療所」が協力医療機関になっている。体調変化時は診療所の看護師長に相談し、医師に報告して頂いている。通院介助はケアマネが行い、日々の体調変化等は付箋に記入し、医師に見て頂いている。職員の観察力も高く、早期対応に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に診療所に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、施設側からアセスメントを渡し、退院時には、主治医から看護サマリーを頂き口答でも説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、ターミナルケアを経験してきたので、家族からの要望や主治医の意見を取り入れて、全職員でケア出来る様に努めている。	「最期はホームで」と願う方が多い。看取りを希望される場合はホームが医療機関ではない事を理解して頂いており、入居者の体調変化に応じて、家族と主治医と話し合い、家族の協力依頼も続けている。29年と30年も看取りケアが行われ、職員全員で誠心誠意のケアが行われた。家族の方も甘酒を持ってきて下さり、飲ませて下さった。	これからも体調変化や終末期における、主治医との協力体制の在り方を検討していく予定にしている。基礎疾患に応じたケアの留意点を医師等に確認する予定であり、訪問看護ステーションとの更なる連携も検討していく予定である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	パンフレットを展示したり、ミーティング時に勉強したり、時には直接主治医に尋ねたりすることもある。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練を年2回と実践訓練(中村防災)を実施している。全職員が知識を身に付け、地域との協力体制もできている。	居室は掃き出し窓であり、避難時は窓から外に出る事ができる。年に2回(夜間想定)、消防署と防災設備業者、宅老所等と合同で訓練している。町内会長と消防団に協力依頼し、災害時は自動火災通報装置で連絡されるシステムになっている。災害に備えて水や食料、個人用の非常持ち出しバック、緊急時連絡先一覧表等を準備しており、防災頭巾も手作りしている。	避難場所が町民センターになっている。町民センターのトイレや居室の段差などを含めて、入居者が災害時に利用する状況は視察したいと考えており、マニュアルにも活かしていく予定である。
----	------	---	--	--	---

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	氏名は姓で呼び居室に入る際はノックをする等プライバシーに気を付けている。	優しい職員が勤務し、理念の通り“まごころ”のケアを続けている。職員の休憩室には“非4原則(してはいけない事)”を掲示し、業務に入る前に確認している。家族の希望もあり、呼び名に「ちゃん付け」する方もおられるが、原則は名前で呼ばれている。個人情報管理の意識づけも続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の希望、思いを引き出すと共に自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たり居室で休んだり行きたい所への支援をして、一人一人のペースでゆったり生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々同じ洋服にならない様、一緒に洋服を選んだり整髪、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり、本人の味の嗜好も考慮して調理している。	3食とも職員が手作りしており、梅干しやラッキョウの他、ドレッシングも手作りしている。前日の献立を見ながら、当日の献立を考えており、栄養バランスの配慮もしている。入居者もツワやじゃがいも等の食材の皮剥きをして下さり、味見や片づけ、皿洗い、テーブル拭き等もして下さっている。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量の把握。刻み食やトロミ食等その人に合ったものを提供している。水分に関しては定期的に補給したり本人の要望があったときは提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後には必ず口腔ケアを実施し、夜は毎日入れ歯の洗浄を行い、週1回は歯ブラシセットの消毒を行っている。		

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用にて、一人一人の排泄パターンを職員が理解し、自立に向けた支援をしている。	トイレでの排泄を大切にされている。排泄が自立し、布の下着を使用される方もおられる。排泄表を用いて、トイレ誘導するようになり、排泄の失敗、不快な思いをする事が軽減されている。ご本人の行動やしぐさからトイレ誘導する方もおられ、自立に向けた支援を続けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに飲用して頂き、料理の献立には根菜類、牛乳等を多く取り入れる工夫をしている。又、適度な運動も取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調を伺い、一人一人がゆったりと入浴できるような会話を心がけている。	入浴好きな方が多いが、入浴を好まれない時は無理強いせず、原因を分析し、声かけの工夫をしている。体調に応じて足浴や清拭も行われている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、季節に応じて柚子湯も楽しまれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望、体調を伺い休んで貰ったり、居室の温度調節や冬場は湯たんぽを使用している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を十分に理解し、薬の目的、作用、副作用を確認しながら服用の支援をしている。			

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を全職員が把握し個々の状態に合わせ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気、身体状態を考慮し、可能な限り利用者本人の希望に沿う様に支援している。	入居者はホームの庭で四季折々の花を眺めている。ホーム周辺を散歩する時は職員が同行し、地域の方と挨拶をされている。全員での外出が難しくなっており、少人数や個別で外出されており、季節の花見や買い物にお連れしたり、通院介助の帰りに自宅に寄られる方もおられる。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者からの希望がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎをし居室にて子機で会話して頂いている。手紙の読み書きが出来ない方には職員が代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはカーテンで目隠しプライバシーを損なわない様に配慮をしている。玄関、食堂には季節の花を飾るなどして、落ち着いた様な空間づくりを心がけ、心地よく過ごせるような工夫をしている。	1つのユニットは台所とリビングが隣接し、職員の姿が見えやすくなっている。廊下の幅も限られ、車いすの離合時は譲り合っている。1つのユニットは天井も高く、広い空間で、ソファも複数置かれており、両ユニット共同で体操やカラオケを楽しまれている。温度管理も行われ、可愛い膝掛けも愛用されている。共用テレビの音量も調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で過ごしたり畳に横になったりソファで利用者同士、楽しく会話できるように居場所の工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしているものは身近において、不安なく家の中にいる様な感覚で、過ごして頂いている。	馴染みの物を持ち込まれ、家族の写真も飾られている。仏壇を置かれている方もおられ、職員がお茶とお水等を準備し、ご本人も手を合わせている。居室で小説を読まれたり、編み物がお好きだった方は、家族が毛糸を持参して下さっている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を十分に理解し毎日の生活の中で、身の回りのこと等「出来る事」を引き出し可能な限り自分で出来るよう支援する。利用者本人が悩んだり、手助けが必要な時はさりげなく支援する。		
----	--	--	--	--	--